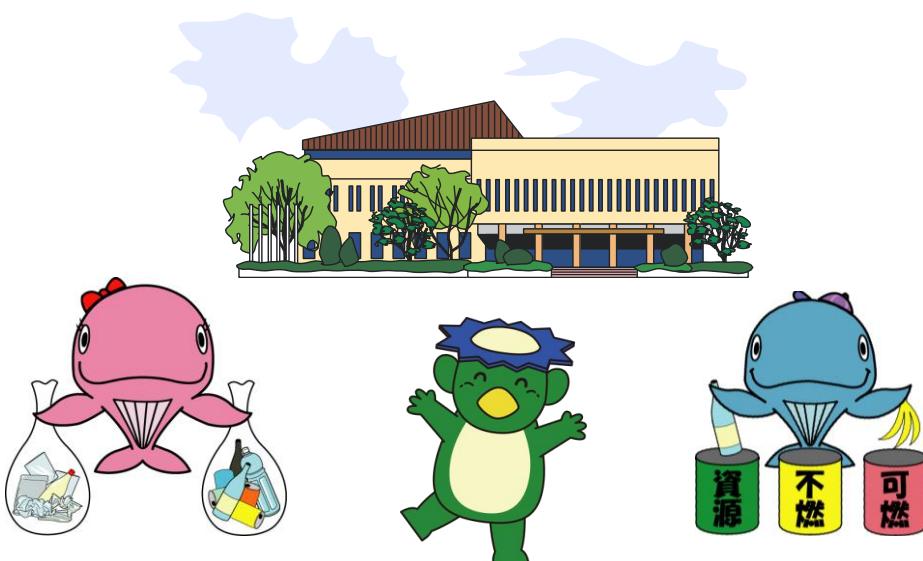


やさしい 昭島市の財政

(令和元年度決算)



令和2年9月
昭 島 市



はじめに

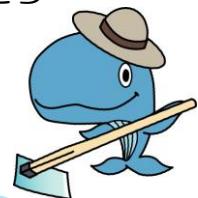
この冊子は、昭島市の財政白書である「昭島市の財政」の平易版として作成しています。

財政白書は、財政状況を様々な側面から考察しており、地方自治体の財政状況を知るうえで非常に重要な冊子です。その一方で、専門的な表記も多く、市民の皆さんにとって身近なものではありませんでした。

そこで、昭島市の財政をできる限り分かりやすくお知らせするために、「やさしい昭島市の財政」を作成しました。作成に当たり、自治体の財政についてあまり関わりのない方や学生の方々にも読みやすいように工夫しています。これを読んでいただき少しでも昭島市の財政について関心をもっていただけたら幸いです。

目次

I 財政	1
II 歳入（税金）	3
III 歳入（税金以外の歳入）	6
IV 歳出	11
V 市債と基金（借金と貯金）	15
VI 財政状況	19



この冊子を読むに当たって・・・

この冊子は、昭島市公式キャラクターの



アッキーとアイランが会話をする形式で内容を構成しています。

私たちが、昭島市の
財政を分かりやすく
説明します！



(昭島市公式キャラクター アッキー&アイラン、ちかっぱー)

- ※ 各表の計数は、原則として表示単位未満を四捨五入し、端数整理をしていないため、合計額等と一致しないことがあります。
- ※ 本冊子中の「26市」とは、昭島市を含む東京都内26市です。
- ※ 本冊子の数値は、一般会計の決算数値を使用しています。

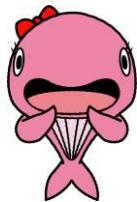
昭島市公式キャラクター アッキー&アイラン プロフィール



名前：アッキー（♂）
性格：元気、食いしん坊
好きなもの：学校の給食
趣味：サイクリング
特技：サッカー



名前：ちかっぱー
好きなもの：きゅうり



名前：アイラン（♀）
性格：おしゃべり好き、きれい好き
好きなもの：お花、アクセサリー¹
趣味：ショッピング
特技：小物作り

I 財政



財政ってどんなもの？



アイラン「国や市役所の財政が厳しいってニュースで聞いたよ。そもそも、『財政』ってどういうものなの？」



アッキー「財政とは、みんなから集めたお金をみんなのために使う仕組みのこととで、みんなが住んでいる昭島市の家計のようなものだよ。みんなが会社からもらう給料などで生活しているように、昭島市もみんなが納めた税金、国や都からの補助金などで学校の運営や道路の工事をしているんだ。

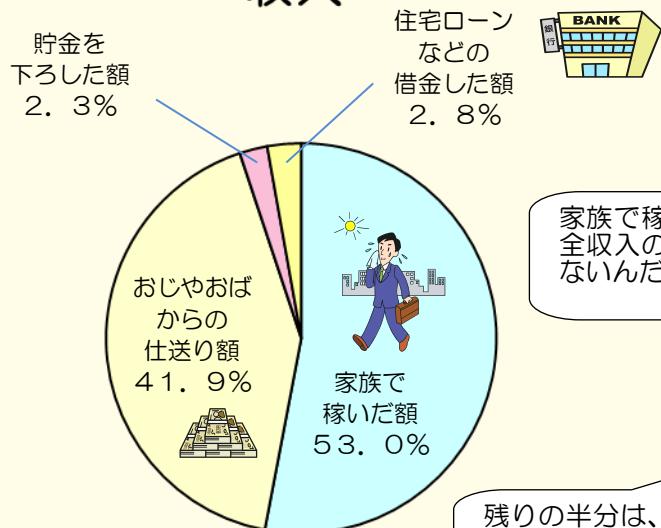
昨年度の昭島市の決算額は以下のとおりだけど、次の『表1』のように、家計に置き換えてみるとわかりやすいかな。」

令和元年度の昭島市の決算額（一般会計）

◆収入額	466億円	◆基金（貯金残高）	121億円（収入の約4分の1）
◆支出額	452億円	◆市債（借金残高）	196億円（収入の約2分の1）

表1 令和元年度の財政状況

収入



家族で稼いだ額は、全収入の半分位しかないんだ。



< 収入 >

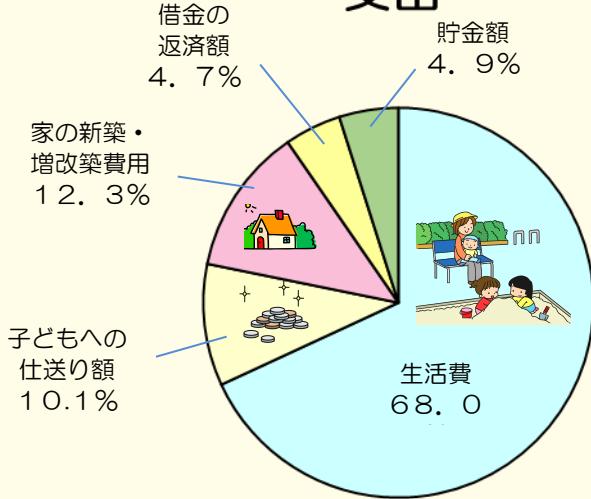
家族で稼いだ額：市税、使用料・手数料、分担金・負担金など

おじやおばからの仕送り額：国庫支出金・都支出金、地方譲与税、地方交付税、各種交付金

貯金を下ろした額：基金繰入金

住宅ローンなど借金した額：市債

支出



こう見ると色々な収入と支出があるんだね。



< 支出 >

生活費：人件費、扶助費、物件費、補助費等

子どもへの仕送り額：繰出金

家の新築・増改築費用：建設事業費

借金の返済額：公債費

貯金額：積立金

II 歳入（税金）



税金とは？



「まずは一般会計の『歳入』について見てみよう。『一般会計』とは、福祉、教育、ごみの処理など広く住民に対して市役所が行う事業に関して、基本的な収入や支出を管理している会計のことだよ。

また、『歳入』とは、4月から3月までの1年間に市町村に入ってくるお金のことなんだ。歳入には色々なものがあるけど、まず『税金』から話すね。」



「そもそも税金って何のためにあるの？」

「税金は、防災、消防、道路の整備といった『みんなのために役立つ活動』、医療、介護、福祉などの『社会での助け合いのための活動』、学校の運営や教材費などの『教育のための活動』などに使われているんだ。つまり税金は、みんなで社会を支えるための『会費』といえるね。税金は下の『表2』のように何種類もあって、このうち『市町村税』の欄の税が『市税』として昭島市に納められるんだ。また、東日本大震災の影響を受けて復興のための増税がされたんだ。」



「そうなんだ。ところで、復興のための増税ってなに？」



「その内容は、市民税の均等割額が、平成26～令和5年度までの10年間は5百円増えたり、会社を退職する時にもらう退職金にかかる税金の控除が、平成25年1月1日以降の支払いに係る分から廃止されたんだ。その増税分のお金は昭島市内の防災や減災のために使われるんだよ。」



「知らなかったわ。災害に強い街づくりを進めてほしいわね。」

表2 税金の種類

	国税 (国に納める税)	地方税（都道府県・市町村に納める税）	
		都道府県税	市町村税
直接税 (税金を負担する人が直接納める税)	所得税 法人税 贈与税 相続税など	都道府県民税 事業税 自動車税 など	個人市町村民税 法人市町村民税 固定資産税 軽自動車税など
間接税 (物を買ったりした人が負担し、お店等が納める税)	消費税 酒税 たばこ税 関税など	地方消費税 都道府県たばこ税 ゴルフ場利用税 など	市町村たばこ税など

地方税のうち「市町村税」の部分が昭島市に納められる税金なんだ。





令和元年度の市税収入の特徴



「それじゃあ、令和元年度は昭島市にどれ位の税金が納められたの？」

「全部で198億円納められたんだ。その内訳は下の『表3』のようになるよ。

令和元年度の市税の収入は平成30年度に比べて784万円減ったけど、一番市税収入が多かった平成19年度と比べると3億9千万円も少ないんだ。」

表3 令和元年度市税収入の内訳

個人市民税 71億3274万円	法人市民税 15億3183万円	固定資産税 87億4109万円
都市計画税 15億5567万円	市たばこ税 7億4886万円	軽自動車税 1億2940万円

合計額198億3959万円（市民1人当たり17万4957円）



「前年度と比べると減っているのね。何が原因なのかしら？」

「市税のうち、個人市民税は1億円増えたけど、企業収益の減などで法人市民税が2億1千万円減ったことなどが主な理由かな。」



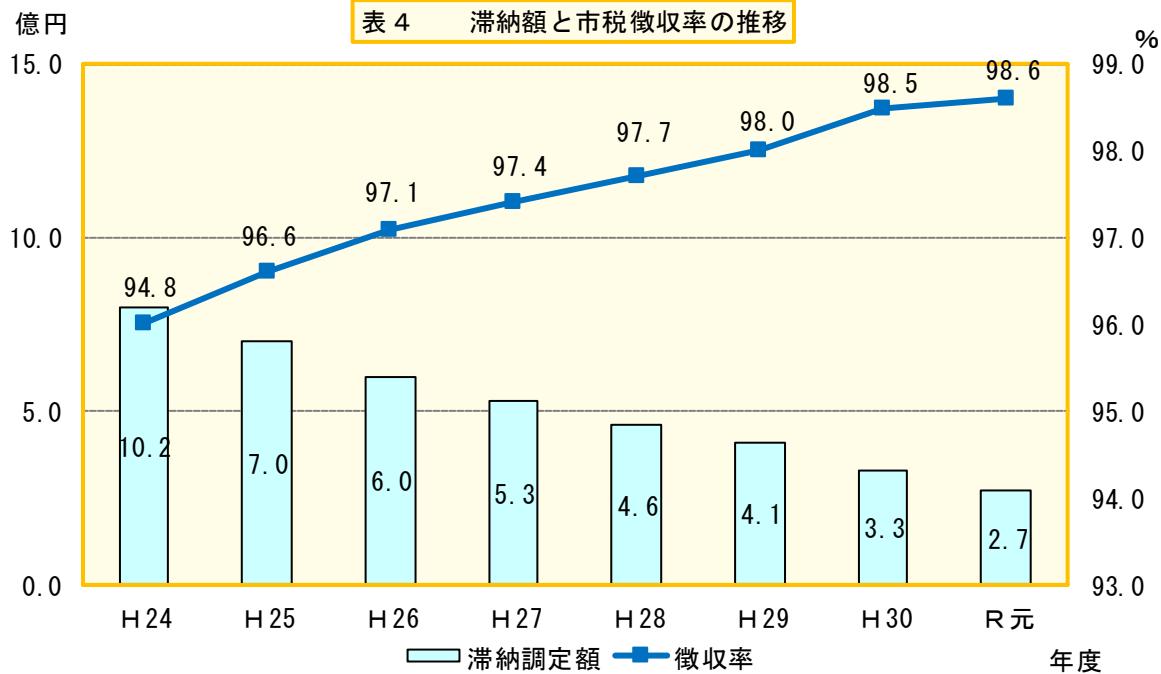
「一番市税収入が多かった平成19年度と比べると、どの位なの？」



「個人・法人合わせて令和元年度の市民税が86億6千万円だったのに対して、平成19年度は95億3千万円だったから、比べると8億7千万円も減ってしまっているんだ。会社やそこで働く人たちの収入が減るのは大変だけれども、そうなると国や市町村に納める税金も減ってしまう。昭島市の収入である税金が少なくなると、昭島市が行うサービスのやり繰りも大変なんだよ。だから、昭島市の財政は厳しい状況が続いているんだ。

また、市税を期間内に納めてくれない『たいのう滞納』も問題になっているね。

次のページの『表4』を見て。」



「市税がどれぐらい納められたかを『徵収率』というんだけど、令和元年度は、98.6%だったんだよ。平成30年度に比べると徵収率は良くなったけど、それでも滞納額はまだ2億7千万円にもなるんだ。」

「払われていない税金ってそんなにあるの！？」

「色々な事情があって税金を納められない人もいるけれど、みんなに公平に税を負担してもらわなくてはいけないから、昭島市ではコンビニエンスストアやクレジットカードで納付できるようにして、税金を納めやすくしたりしてるんだ。他にも、休日に窓口を開いて納付をお願いしたり、夜間に納付をお願いするための電話をするなどして、これ以上滞納額が増えないように頑張っているんだって。」

「徵収率も平成30年度と比べて0.1ポイント増えてるし、これ以上滞納額が増えないためにも頑張ってほしいけど、やっぱり、みんなに自分からきちんと税金を払ってもらいたいな。」

「歳入には、ほかにどんなものがあるのかしら？」

「それでは、ほかの歳入について見てみよう。」





III 歳入（税金以外の歳入）



税金以外の歳入



「市町村の歳入には、税金のほかに主なものとして国庫支出金・都支出金、
使用料・手数料、分担金・負担金、地方交付税、市債といったものがあるんだ。
どんなものなのか、それぞれ順番に見てみよう。」



国庫支出金・都支出金



「まずは『国庫支出金・都支出金』だよ。」



「それってどんなお金なの？」



「ちょっと聞きなれない言葉だけど、これは、特定の事業を行うために国や東京都から市町村へ補助されるお金のことなんだ。昭島市の収入としては、税金の次に多く、歳入全体の約3割を占めているんだよ。」



「へえ～、『特定の事業』ってどんなものがあるの？」



「例えば、令和元年に学校で大掛かりな工事をしていなかったかい？」



「うん。校舎の外壁やトイレの改修工事をしていたよ。あっ！それが『特定の事業』なんだね。」



色々な人が国や都や市に納めた税金がもとになって、快適な生活を送れるんだね。



「そうなんだ。学校のほかにも、教育福祉総合センターなどの施設や道路の整備などもそれに当たるよ。」



「こうやって見ると、色々な工事をやっているのね。でも、いろいろな工事をしているけど、工事ってすごくお金がかかるんじゃないの？」



「そうなんだよ。でも厳しい財政状況の中でも、昭島市だけだと実施するのが難しい事業も、費用の全部又は一部を国や東京都が補助してくれることによって事業が実施できているんだ。そのお金を歳入の中で『国庫支出金・都支出金』と呼んでいるんだよ。」



「ふ～ん。次は？」



市町村には色々な種類の収入があります。



使用料・手数料



「次は『使用料・手数料』だよ。これは、みんなが市町村の施設を利用するときに支払うお金や、ごみの収集袋を買うときに支払うお金などのことなんだ。」



「例えば、駅の近くに昭島市の自転車駐輪場があるよね。」



「ああ。この前、自転車を停める人が、100円を払っているのを見たわ。」



「自転車駐輪場はいつもきれいに自転車が並んでいるよね。利用する人たちが、いつも気持ち良く利用することができるよう管理をしているんだけど、令和元年度では1億5千万円ものお金がかかっているんだ。そのため、利用する人たちから使用料というお金を払ってもらって、自転車駐輪場の管理費にあてているんだよ。」



「じゃあ、手数料ってどんなものがあるの？」



「生活すると必ず出るのが『ごみ』だよね。」



「うん。お菓子を食べた後の袋や、ジュースを飲んだ後のペットボトルなどいろいろな『ごみ』が出るわね。」「市町村の代表的な市民サービスとして、ごみの収集や処理の業務があるんだけど、昭島市では『燃えるごみ』や『燃えないごみ』などを出すときには、コンビニエンスストアやスーパーなどで売っている昭島市が指定したごみ収集袋を買って、ごみを出さなければならないんだ。」



「ということは、ごみを出すにはお金がかかるってことなの？」



「そうなんだ。昭島市には約11万3千人が暮らしているんだけど、当然ごみもたくさん出ることになり、ごみの収集や処理に係る経費は年間19億4千万円くらいかかっている。そこで、昭島市は、ごみを減らすことも目的として平成14年度からごみ収集の有料化を実施したんだ。昭島市が指定したごみ収集袋の購入代金が手数料になり、令和元年度は2億2千万円の収入があったんだよ。」



「使用料と手数料って、1年間にどの位の収入があるの？」



「令和元年度はおよそ8億9千万円で、歳入全体の1.9%を占めているよ。」



「そんなにあるんだ！」

昭島市には駐輪場が18箇所あるんだよ。





分担金・負担金



「今度は『分担金・負担金』だよ。あまり聞かない言葉だけど、どんなものだと思う？」



「分担、負担・・・？」



「市町村が行っている特定のサービスを受ける人が、サービスを受けるために負担する（支払ってもらう）お金のことだよ。たとえば、0歳から2歳の子どもが私立保育園に通うときに保育園に支払うお金は、保育料という『負担金』なんだよ。」



「保育園に通うのにどうしてお金を払う必要があるのかしら？」



「保育園を運営するのにはたくさんのお金がかかっているんだ。そこで、保育園の運営に必要な費用の一部を保護者に負担してもらっているんだよ。」



「知らなかったわ。ほかには？」



地方交付税



「ほかには『地方交付税』というものがあるよ。これは法律で定められた一定の基準によって、国に納められた所得税などの税金の一部が、国から都道府県や市町村へ配分されるお金のことなんだ。地方交付税は『普通交付税』と『特別交付税』の2つがあって、簡単にいうと『普通交付税』は国が定めた基準によって計算された収入が支出よりも少ない場合に、その分を国が配分して交付する制度なんだ。これにより、私たちが日本のどこの市町村に住んでいても教育や福祉など一定水準の行政サービスを受けることができるようになっているんだ。」



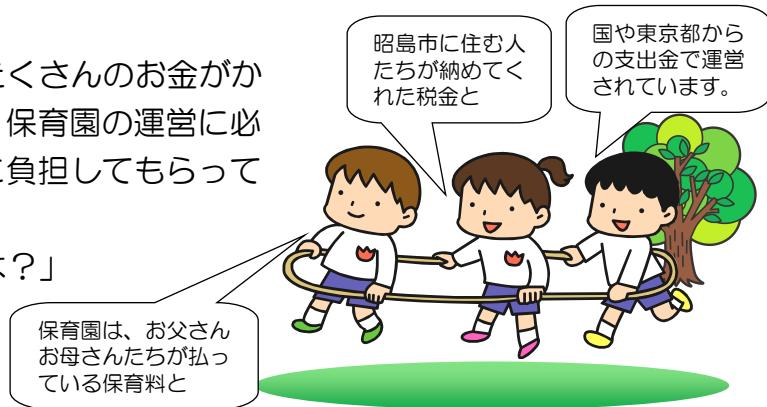
「じゃあ、全国の都道府県と市町村が『普通交付税』をもらっているの？」



「令和元年度では、47都道府県のうち、東京都だけがもらっていないんだよ。国が定めた基準によって計算された支出より税金などの収入の方が多かったからなんだ。東京都は、昭和29年度に現在の地方交付税制度ができてから、一度も『普通交付税』をもらっていないんだ。また、東京都の39市町村のうち令和元年度に『普通交付税』をもらっていないのは、立川市や武蔵野市などの9市1町で、昭島市も景気低迷の影響から市税収入が減ったことなどにより、平成22年度からは『普通交付税』をもらっているんだよ。」



「じゃあ『特別交付税』は？」



 「『特別交付税』というのは、地震や台風、大雪などの自然災害の発生により受けた被害から復興するための費用や除雪費用など、急にお金が必要になった時に国から交付してもらうお金なんだよ。」

 「なるほど～。昭島市には『普通交付税』と『特別交付税』は、どのくらい入ってくるの？」

 「令和元年度は4億6千万円入ってきたよ。そのうち3億4千万円が、『普通交付税』なんだ。ただ、これは市の独自の収入が少ないことを意味するので、決して良いことばかりではないんだよ。」

 「そうなんだ。」

 「それから、平成23年度から震災復興特別交付税という制度ができたんだ。例えば、家を買うと固定資産税という税金がかかって市の税収となるけど、震災の被災者に対してはこの税金が安くなる制度があるんだ。そこで、市の税収が減ってしまった分を、被災者に代わって国が市に支払ってくれるんだ。これが震災復興特別交付税というものなんだ。昭島市は令和元年度に3万5千円が交付されたよ。」

 「いろいろな種類の交付税があるのね。」



市債

 「それ以外にも市債というものがあるんだ。簡単にいうと借金による収入なんだけど、詳しくは『市債と基金』の15ページで説明するね。」



令和元年度の歳入の特徴

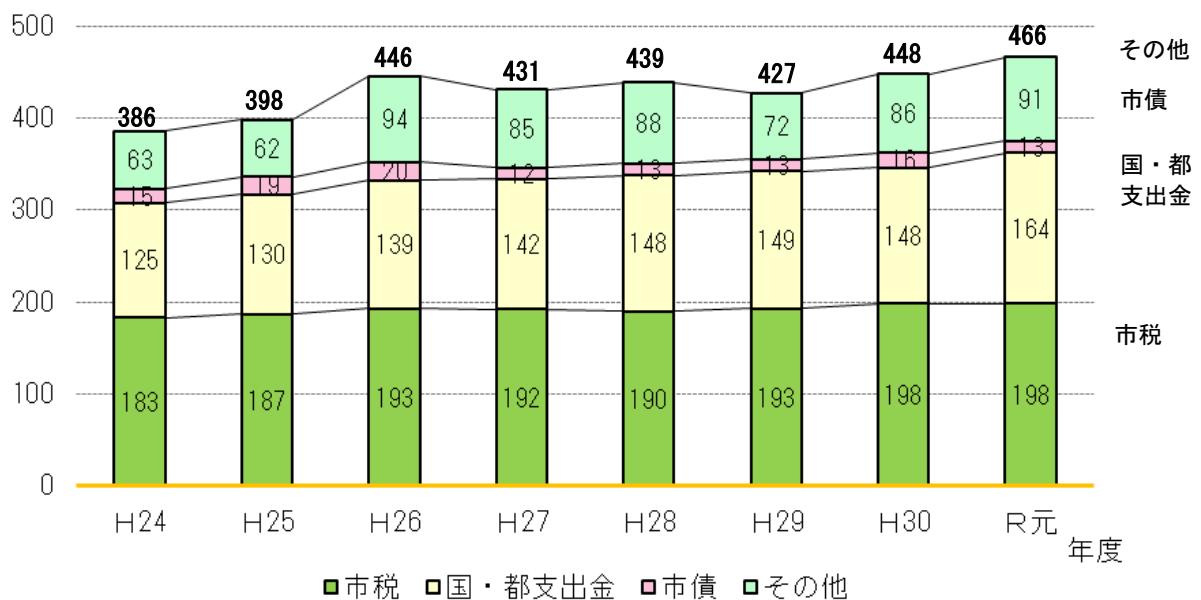


「それでは令和元年度の歳入の特徴を見てみよう。

市税全体は198億4千万円で平成30年度とほとんど変わらないけど、国や都の支出金が15億2千万円増えて163億5千万円になっているね。歳入全体では令和元年度より18億2千万円増えて465億9千万円となっているよ。」

億円

表5 歳入額の年度別推移



「なるほど。全体の収入は増えたのね。」

「上の『表5』で詳しく見てみよう。例えば国・都支出金が平成30年度と比べて16億円増えているんだ。これはさっき説明したとおり、特定の事業を行うために国や東京都から市町村へ補助されるお金だね。令和元年度は教育福祉総合センターの整備や公立小中学校体育館への空調機器設置などで、国や東京都から多くの補助金が交付されたんだ。ただ、これらのお金の多くは使い道が決まっているお金だから、自分たちで自由に使えるお金ではないんだ。単純に歳入の増減だけではなく、どういった種類の歳入が増えたかが、重要ななるんだよ。」

歳入のうち「市税」が増えると、使い道が限定されないので、ある程度自由に使えるお金が増えることになります。



IV 歳出



何にお金を使っているの？



「歳入の主なものは、これまで話したとおりだよ。じゃあ今まで話してきた収入が、どの様に使われているのか、次に『歳出』について話すね。

歳出とは、4月から3月までの1年間に市町村が使うお金のことだよ。昭島市では令和元年度に451億8千万円のお金を使ったんだよ。」



「そんなに使ったの！？でも、何にお金を使ったのかよくわからないわ。一体、どんなことにどれ位のお金を使ったの？」



「金額も大きいし、想像もつかないよね。じゃあ、市民1人当たり、何のためにいくら使ったのかを見てみよう。下の『表6』は、令和元年度に昭島市が使ったお金を1人当たりの金額にした表だよ。赤ちゃんからお年寄りまで、1人1人にこれだけのサービスが提供されることになるよ。」



「福祉のために使われているお金が一番多いのね。」

表6 何のために使ったの？

<p>民生費 福祉サービスを行うために使ったお金 保育園の運営 人件費 管理運営経費 など</p>  <p>18万7320円</p>	<p>教育費 教育などを行うために使ったお金 学校の教材費 学校管理費 スポーツ施設管理費 など</p>  <p>6万7385円</p>	<p>総務費 住民票の交付や税金の徴収、庁舎の管理などを行うために使ったお金 人件費 管理運営経費 など</p>  <p>5万2715円</p>
<p>衛生費 衛生的な生活を送るために使ったお金 予防接種 人件費 ごみ処理経費 など</p>  <p>3万1885円</p>	<p>土木費 道路の整備や管理のために使ったお金 設計・建設費 人件費 管理運営経費 など</p>  <p>1万8978円</p>	<p>公債費 借りていたお金を返すために使ったお金 市債の返済</p>  <p>1万8743円</p>

※その他(消防費・議会費・商工費・労働費・災害復旧費・農林費) 2万1424円

令和元年度は1人当たり
39万8450円分のサービス
を提供したことになるよ。

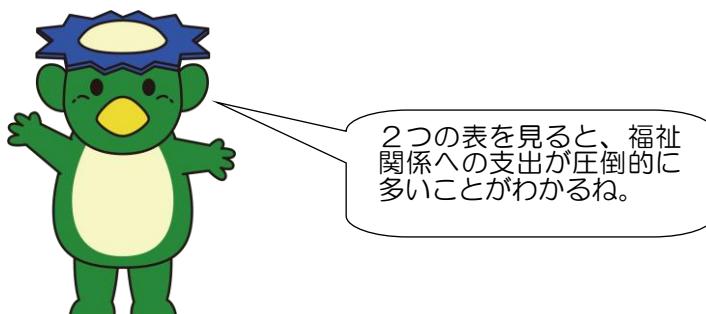


「『表6』は、何のためにお金を使ったかを示した表なんだ。もう一つ、次のページの『表7』を見てみよう。今度の表は、どんなことにお金がかったかを示した表だよ。」

表7 どんなことにお金がかったの？

扶助費 福祉サービス自体にかかった お金  児童手当 生活保護費 など 13万3116円	物件費 行政サービスを運営する ためにかかったお金  通信運搬費 委託料 貸借料 など 5万9540円	普通建設事業費 建物を建てるごとにかかるお金  道路建設費 学校の改修 など 4万8386円
人件費 職員の給料などにかかった お金  市長や職員の給料 議員や委員の報酬 など 4万7251円	繰出金 他会計や基金へ渡したお金  4万318円	補助費等 補助金などとして支払った お金  補助金 謝礼金 など 2万8697円

※その他(積立金・公債費・維持補修費・災害復旧事業費)4万1142円



「一番払っている金額が多いのは、『扶助費』なのね。具体的には、どういうことをするの？」

「例えば、児童手当を支給したり、保育園を運営したりするのに必要なお金や、障害者や生活に困っている人たちを支援するためのお金のことだよ。昭島市は多摩地域の26市の平均と比較しても扶助費の額が大きいんだ。この『扶助費』については、これから給付する基準やどのくらい本人に負担をしてもらうかなどについて、もっとよく考えていく必要があるんだ。」

「良いサービスを提供しつつ、お金がかからないように考えるってことね。難しいわね。」



令和元年度の歳出の特徴



「次に、令和元年度の歳出の特徴を見てみよう。」



「うん。」



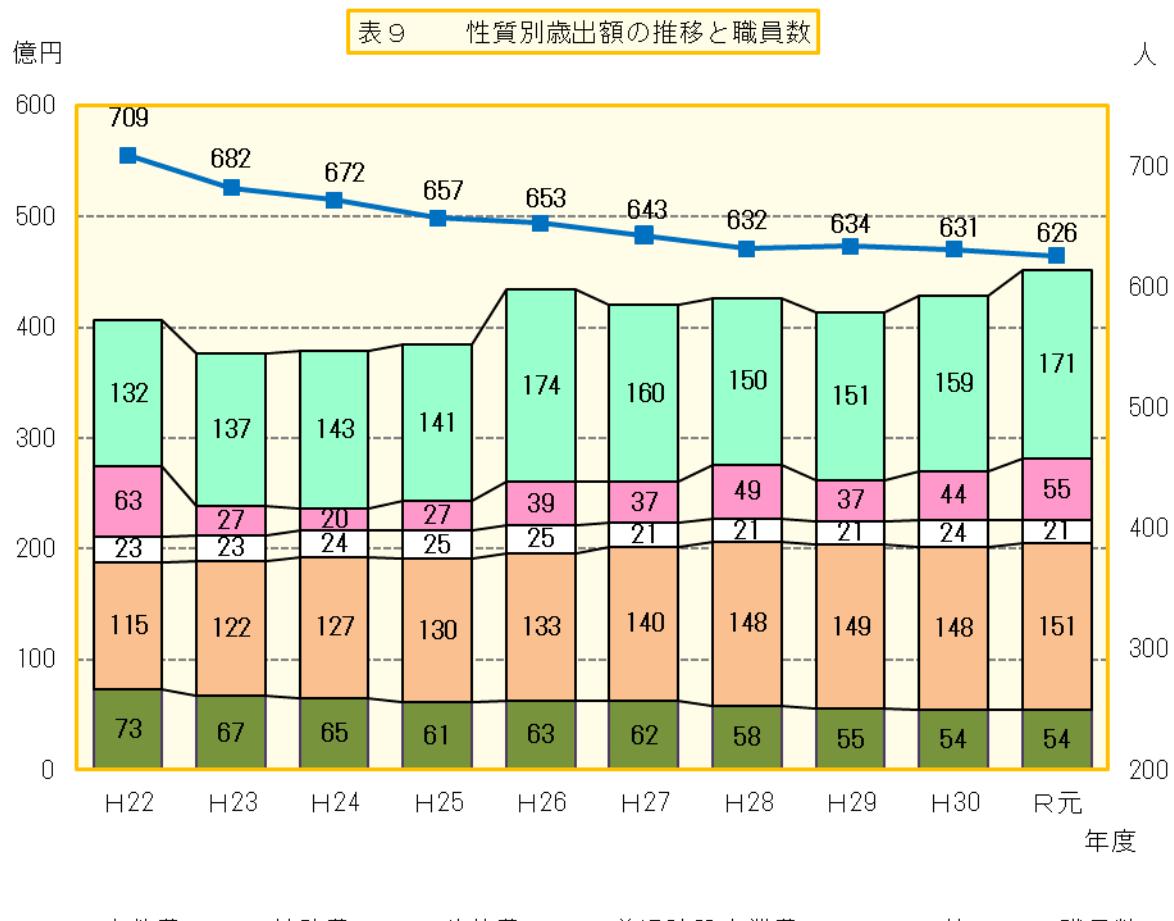
「令和元年度の歳出は、教育福祉総合センター整備事業や小・中学校体育館空調機器設置事業などにより普通建設事業費が10億6千万円も増えたんだ。また、貯金である積立金も6億1千万円増えているよ。結果として総額では平成30年度より23億3千万円の増加となったんだ。主な事業は、下の『表8』のとおりだよ。」

表8 令和元年度の主な事業

心ゆきかう あきしま（明るい地域社会の形成）	
昭島消防署昭和出張所移設	1億9873万円
防災行政無線デジタル化	1億374万円
令和元年台風第19号被害に伴う公共施設復旧	4639万円
ともに支え合う あきしま（健康と福祉の充実）	
保育園新築・改築工事費補助	7211万円
松原町高齢者福祉センター空調設備改修	5710万円
児童発達支援センター整備費補助	1150万円
未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）	
教育福祉総合センター整備	28億9194万円
小・中学校体育館空調機器設置	2億6706万円
伝統文化継承環境整備	6474万円
環境をつなぐ あきしま（循環型社会の形成）	
清掃センター焼却施設補修	2億326万円
崖線緑地・公共施設樹木保全	3970万円
電気自動車急速充電設備設置	682万円
基盤を築く あきしま（快適な都市空間の整備）	
都市計画道路3・4・1号整備	2億3336万円
クリーンセンター敷地有効利用事業	1億6303万円
都市計画マスタープラン策定	338万円
躍動する あきしま（産業の活性化）	
プレミアム付商品券事業	9647万円
観光マップ作成	147万円
ご当地ナンバープレート作成	74万円
その他	
総合基本計画策定	790万円
eLTAX電子納税システム導入	324万円

「実際に目には見えないけれど、昭島市は色々なことにお金を使っているのね。これも、みんなの税金などで払われているんだから、大切に使わなくちゃ。」

「そうだね。また、『表9』のとおり扶助費が増える傾向にあって、9年前に比べると1.3倍位に増えているんだよ。歳入は簡単には増えないから歳出を減らすしかないんだ。そのため、昭島市では、市役所運営の効率化を進めながら、職員数の見直しも行った結果、9年前に比べ職員数を83人、人件費では19億円ほど減らしたんだよ。」



■人件費 ■扶助費 ■公債費 ■普通建設事業費 ■その他 ■職員数

令和元年度は、公債費は減ったけど、普通建設事業費や扶助費が増えていることがわかるね。



市税など自由に使えるお金が増えない中、扶助費などのお金を大幅に減らすことはできないので、我々もいろいろな仕事を効率よく見直すとともに、職員数を減らしたりして、なるべくお金がかからないように努力しています。

V 市債と基金（借金と貯金）



市債

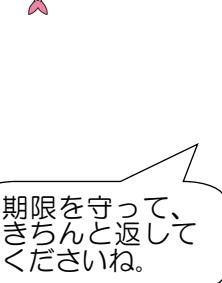
「歳出のページでは、昭島市も厳しい財政状況の中、頑張っているのがよくわかったわ。ところで、前のページの『表9』にある公債費って、歳入のページで話してくれた市債と何か関係があるのかしら？」



「公債費とは過去に借り入れた借金を返済するお金のことなんだ。それでは、次に昭島市の借金と貯金について見てみよう。

まずは市の借金である市債から説明するね。昭島市もわたしたちと同様にお金が足りない場合には、国や東京都などからお金を借りて工事のお金などを支払ったりしているんだ。昭島市が借金をする場合、『市債』という債券（借用証書のようなもの）を起こして借りるんだ。だから市の借金を一般に市債といい、市債を発行することを『起債』というんだよ。市債は借金だから、当然のことながら借りたお金（元金）を返すときに、利子も付けて返済しなくてはいけないんだ。だから起債するときは注意をしなくてはいけないんだよ。」

「だったら、起債なんてしなければいいんじゃない？」



期限を守って、
きちんと返してくださいね。

「そうだね。もちろん借金は少ない方が良いんだけど、起債をすることには大きな意味があるんだ。では、ここで問題。市町村はその年に必要なお金を原則としてその年度に入った収入で支払っているけど、この方法で建物などを作った場合、その後に昭島市に引っ越してきた人たちは、そのお金を払うことになるのかな？」



「建物を作ったときに住んでいた人たちが払った税金で建てていることになるから、タダってことになるんじゃないかな？」



「そのとおり。建物や道路は長い間使用することになるよね。1年後に昭島市から引っ越す人もいれば、10年後に産まれてくる人もいる。その人たちにも公平にお金の負担をしてもらうにはどうしたらいいかな？」



「使用する年数で、費用を分けて払えば良いと思うわ。」



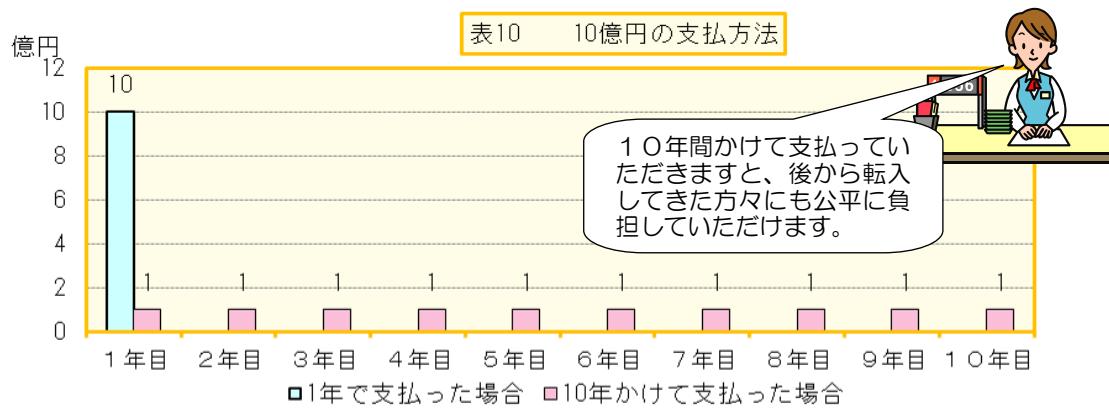
「そうだね。10年使用するなら費用を10年分で割り、毎年みんなで公平に負担して払えばいいよね。市債を返す場合は、20年とか長い年月をかけて返すことになる。令和元年度の公債費は、利子を含めて約21億円を返済しているんだよ。」



「みんなが使うものは、みんなで負担するってことね。」



「そのとおり。次のページの『表10』のとおり借金をする理由には、世代間でのお金の負担を公平にするための役割もあるんだ。」



「なんだ。じゃあ市町村が借金をするのは建物とか道路を作るときだけなの？」



「原則としては、建物や道路を作るときなどに借りる「建設事業債」と呼ばれるものしか借りてはいけないんだ。ただ、例外として「赤字地方債」という借金をするときがある。これは言葉のとおり歳出が歳入より多くなり、借金をしなければ赤字になってしまう場合などに臨時で借りるお金なんだ。」



「けど、やっぱり借金はしないほうが良いんでしょ？」



「そうだね。税金である市税が大幅に増えることが見込めないから、赤字地方債を借り入れないでやりくりするのは難しいんだ。」



10年



令和元年度の市債の特徴



「じゃあ、昭島市の借金の状態はどんな感じ？」



「下の『表11』を見てごらん。ここ8年間にお金借りた金額、返した金額、そして借金の残高が載っているよ。令和元年度は13億円を借りて20億円の元金を返していることがわかるね。」

表11 市債残高等





「令和元年度は、教育福祉総合センター整備事業や道路整備などに使うための借入れや財源不足を補うための臨時財政対策債の借入れを行ったんだよ。」
※臨時財政対策債・・・市町村の財源の不足を補うために特例として発行される地方債



「今後も大変な状況は続くの？」



「そうだね。昭島市では今後、都市計画道路3・4・1号整備や公共施設等の老朽化対策など多くの建設事業の予定があるんだ。だから建設事業債を借りることが今後も増えるかもしれないね。そして、さっきの赤字地方債だね。『表1-1』では市債残高は総額しか載っていないんだけど、市債残高の半分以上が赤字地方債なんだ。さっきも言ったように赤字地方債は例外的に認められた借金だから多くなってしまうのは問題だね。だけど、景気が回復しないと赤字地方債をさらに借りなくてはいけないかもしれないんだ。」



基金



「市債が借金ってことはわかったわ。じゃあ、貯金はないの？」



「貯金もちゃんとあるよ。市の貯金のことを基金というんだ。基金には、景気が悪くなって歳入が減ったときなどに対応するための『財政調整基金』や、教育福祉総合センターの建設など、一時的に多額の費用がかかる特定の事業に対応するための『特定目的基金』があるんだ。その年の歳入が減ったからといって、市民サービスにかかるお金は払わなければいけないから、そういう時に対応するために、しっかりと貯金をしておかなくちゃいけないんだ。家計でも同じように、学費や家の増改築などの将来の負担に対応するために貯金をしているけど、それと同じで、今は大変でも、できるだけ貯金をするようにしているんだ。」



「ふ~ん。じゃあ、昭島市の貯金額はどうなの？」



「次のページの『表1-2』を見てごらん。ここ8年間の基金がどれくらいあるのかを示した表だよ。」



「平成30年度に比べて12億円増えているのね。」

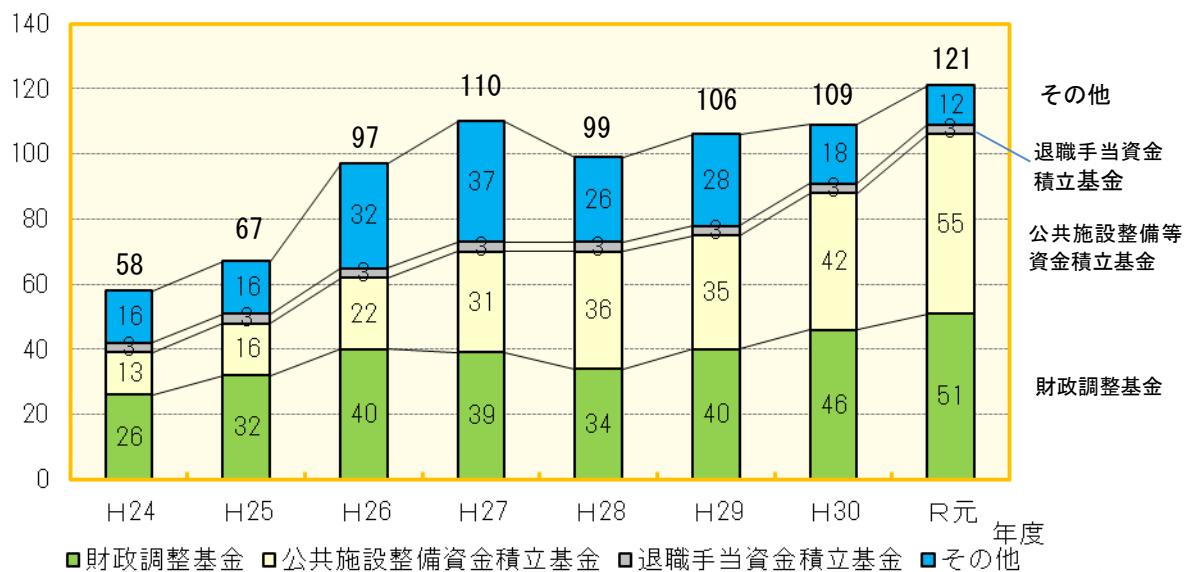


「基金には、歳入が減ったときに對応するための貯金と、特定の事業を行うための貯金があるって説明したよね？それぞれの貯金の状況について、『表1-2』で詳しく見てみよう。」



億円

表12 基金現在高の推移



「例えば、『公共施設整備等資金積立基金』の現在高は13億円、その他の項目に含まれている『特定防衛施設周辺整備調整交付金事業基金』の現在高は1億円増えているけど、これらの貯金は使い道が限定されているから、もしもの時などに自由に使える貯金ではないんだ。だから単純に基金の残高の増減だけを見るのではなく、どういった種類の基金が増えたかが、重要になるんだ。

そこで、歳入が減ったときなどに対応するための『財政調整基金』の現在高についても見てみよう。令和元年度は51億円になって、平成24年度と比べて25億円増えているよ。

景気がまた悪化した場合に、12ページで説明した扶助費が増え続けたとしたら対応できるかな？そのときに財政調整基金でしっかりと対応できるように備えておかなければいけないね。だから市債と同じようにきちんととした管理が必要になるんだ。」



「貯金もいざという時の備えとして重要なんだね。だけど、借金を減らし貯金を増やすには、無駄なものを買わなければいいんだよね？だったら、昭島市も無駄な支出を抑えることはできないのかな？」



「支出を減らすことは市民サービスの低下につながりかねないから、なかなか難しいんだよ。さっきも言ったとおり扶助費はここ10年で減るどころか1.3倍位に増えている。だから、みんながなるべくお金を使わないよう協力しないといけないんだよ。」

いざという時の備えとして、基金の額を増やしていく必要があるんだね。





VI 財政状況



昭島市の財政状況は？



「どうかな？昭島市の財政のこと、少しはわかってきたかな？」



「う～ん、昭島市が色々なことをやっているってことはわかったわ。でも、昭島市の財政状況って良いのかな？それとも悪いのかな？平成18年度に北海道の夕張市が『財政再生団体』になったというニュースを思い出して、ちょっと心配になってしまったわ。」



「そうだね、財政状況を知りたいときは色々な指標（数値）を使ってチェックすればいいんだよ。例えば、さっき市債や基金の残高を説明したけど、これらも財政状況を判断するための大変な指標だよ。もちろん、市債の残額はできるだけ少なくて、基金の残高はできるだけ多いほうが良いよね。」



「確かにそうね。でも、貯金があって借金がなくとも、暮らしにくい街だったら、私は住みたくないわ。」



「そうだね。確かに市町村の仕事は、住民にとって暮らしやすいまちづくりを進めることだから、それだけでは判断できないよね。だから財政状況を表す指標は一つだけじゃなくていくつもあるんだ。例えば、代表的なものとして『経常収支比率』や『健全化判断比率・資金不足比率』というものがあるんだけど、どんな指標なのか、それぞれ見てみよう。」



経常収支比率



「まずは『経常収支比率』だよ。これは、市税のように毎年入ってくるような収入に対して、必ず支払わなければならないお金がどれくらいあるのかを示す割合のことで、各市町村の財政にどれくらいの余裕があるかを表しているんだよ。この数値が低いほど、市独自の事業など自由に使えるお金が多いということになるんだ。つまり、建物や道路をつくるなどの臨時的な経費に対応しやすくなるということなんだよ。」



「・・・・。」



「少し、わかりにくいかな？例えば1人暮らしの会社員であるAさんとBさんという人がいて、それぞれ毎月30万円の収入があるとする。でも、2人はこの30万円を好きなことに自由に使えるかな？」

「それは無理よ。だって、生活するためには食費とか家賃がかかるでしょ。」

「そうだね。この食費とか家賃とかは、生活をしていくには必ず必要で使い道が決まっているお金ということになるよね。例えば、食費や家賃が合計で月15万円しかからないAさんと、月24万円かってしまうBさんでは、どっちがお金に余裕があるだろう？」

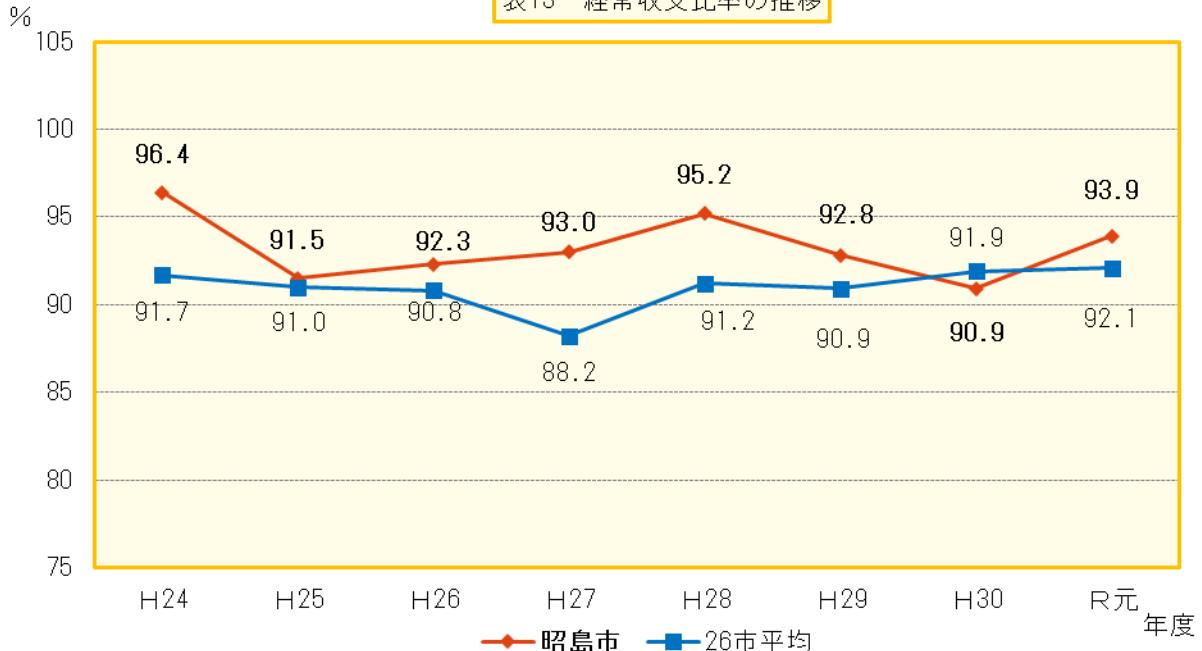
「それは簡単。Aさんに決まっているわ。」

「そう。Aさんの方が毎月必ず支払わなければならないお金が少ないから、経済的にはAさんの方が生活に余裕があるはずだね。経常収支比率というのは、これを市町村の一年単位の収入と支出で計算したものなんだ。AさんとBさんをそれぞれ市に見立てると、A市とB市の経常収支比率はそれぞれ50%、80%ということになるんだよ。」

「お～、確かにこういうやり方なら市町村の財政状況がよくわかるわね。じゃあ、昭島市の経常収支比率は何%なの？」

「下の『表13』を見てごらん。」

表13 経常収支比率の推移



経常収支比率は、高い状態が続いているので、柔軟な対応がしづらい状況です。



「平成30年度より3.0ポイント高くなって、経常収支比率は93.9%? それって、1億円収入があっても、そのうち9390万円は使い道が決まっているってこと?」

収入に対して、必ず支払わなければならぬお金の割合が高いから、自由に使えるお金が少なくて困るなあ。



「そうなんだ。もちろん多摩地域の26市の平均が92.1%だから、昭島市だけがとりわけ高いってわけではないんだ。26市の平均と比べてみて1.8ポイント高いけれど、一般的には経常収支比率が80%を超えると財政に余裕がなくなるといわれているから、それに比べたらかなり高い数値ということになるね。」

「原因はなんのかな？」

「主に2つの原因があると思うよ。一つは歳入の大黒柱である『市税』の収入がなかなか回復しないことかな。さっき例で出したAさんの給料がもし月18万円になってしまったら、当然生活に余裕はなくなってしまうよね」

「たしかに。じゃあもう一つの原因は？」

「もう一つの原因是、歳入は減っているのに毎年必ず支払わなければならないお金（行政サービスの部分）が減っていないことだね。特に歳出のところでも出てきた扶助費は年々増えていて、減る見込みはなかなか立たないんだ。昭島市の職員の給料などは減っているけれど、退職金も含めると大幅に減らすことは難しい状況だね。」

「う～ん、昭島市の財政は想像以上に大変なのね・・・」



健全化判断比率・資金不足比率

「続いて『健全化判断比率・資金不足比率』だよ。健全化判断比率は、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率があって、資金不足比率と合わせると5つの比率があるんだ。これらの比率は、都道府県や市町村などの地方公共団体が財政破たんとなるのを防ぐために定められたもので、財政再生基準を超えると、夕張市のように『財政再生団体』となってしまうんだ。財政破たんにならないようにするためにも、この比率をしっかりとチェックしていくことが大事なんだ。」

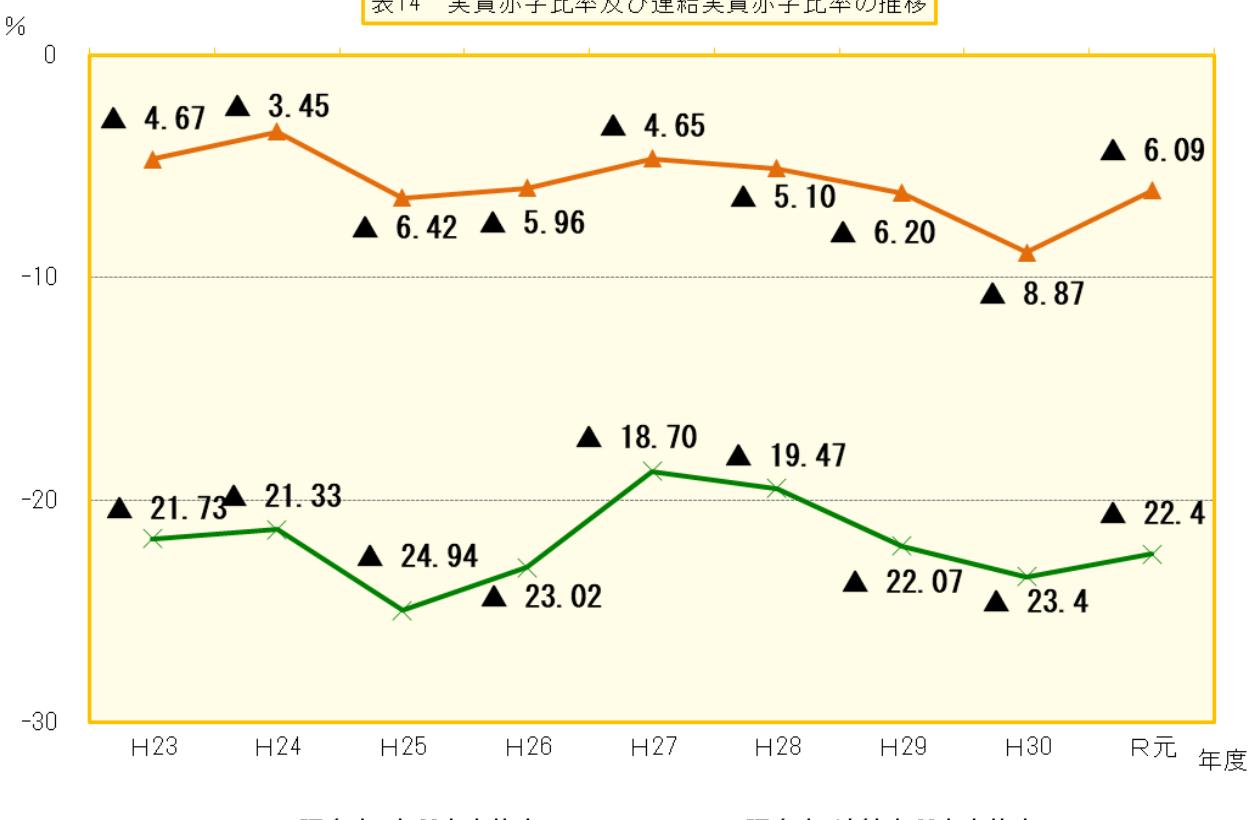
「なんだかたくさん比率があって難しいわ・・・」

「そうだね。言葉だけ見てみると難しそうに感じてしまうから、昭島市の財政に置き換えて見てみよう。まずは、『実質赤字比率』だよ。これは、昭島市的一般会計において、どれだけ赤字があるのか見るための指標なんだ。特別会計を含めた昭島市全体のものは『連結実質赤字比率』というんだ。」

「昭島市の実質赤字比率と連結赤字比率は何%なの？」

「次の頁の『表14』を見てごらん。」

表14 実質赤字比率及び連結実質赤字比率の推移



「全部マイナスになっているけど、昭島市は毎年赤字ってことなの？」

「この比率は、あくまで赤字がどれくらいなのかを見るための比率のことだから、マイナスでの表記は黒字のことを示しているんだ。財政再生基準は、実質赤字比率では20%、連結実質赤字比率では30%となっているんだよ。」

「基準より大きく下回っているから昭島市は健全ということがわかるわね。」



「次に『実質公債費比率』だよ。公債費という言葉から想像できるようにこの比率は借金の返済額に関係があるよ。これは、市税のように毎年入ってくるような収入に対して、一般会計（P.1で説明）の借金に加え、それ以外の水道事業会計、下水道事業会計や市が関係する組合（多摩地域のごみを処理している組合など）などの借金を市がどれだけ負担しているかを示す割合のことだよ。」



「????」



「私たちの家計に置き換えてみよう。私たちの家計を1年単位で見て、給料などの収入に対して、住宅ローンなどの借金の年間返済額がどれくらい占めているかという割合なんだ。」



「へ～、それなら少し身近に感じられるわね。」



「銀行などから借りているお金が返せなくなると、とても大変なことになるから、給料などの収入を考えながら、借金の返済額が多くなりすぎないように気を付けなくちゃいけないんだ。」



「率が低いのと高いのはどちらが良いんだろう？」



「実質公債費比率は借金の割合を示す数値だから、なるべく低い方が良いんだよ。18%を超えると借金するときに、国の許可が必要になてしまうんだ。」



「えっ！市が借金をするのに、国の許可が必要だなんて、大変だ。」



「そうなんだ。また、財政再生基準は35%ともっと高い比率となっているんだ。」

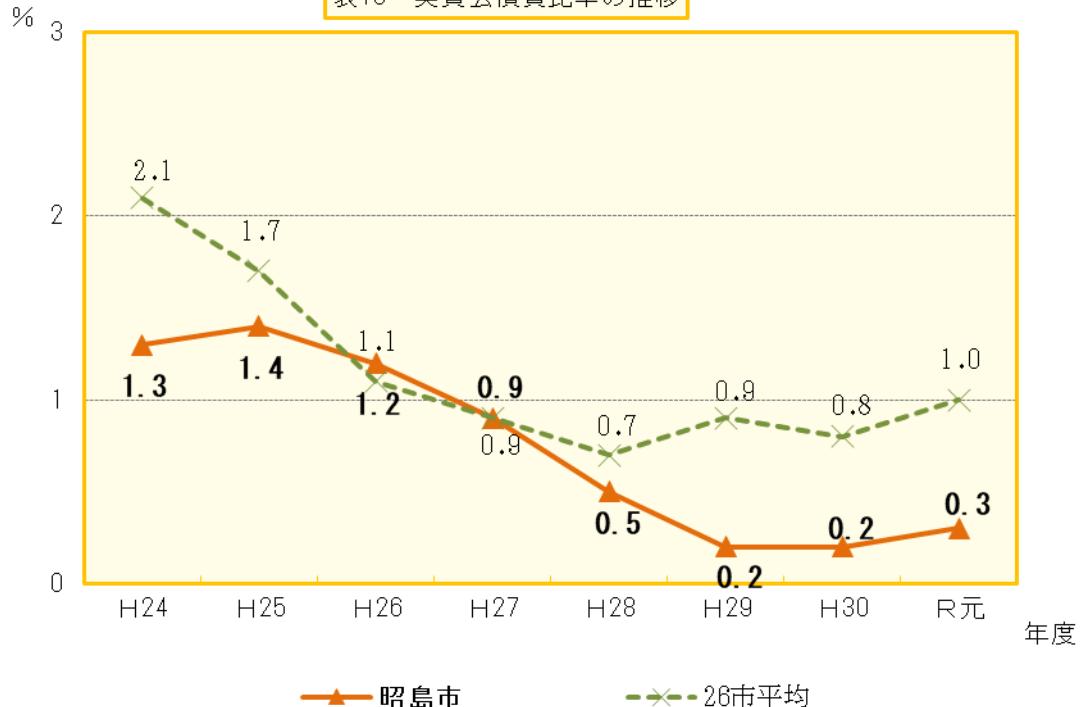


「そうなのね。じゃあ、昭島市の実質公債費比率は何%なの？」



「下の『表15』を見てごらん。」

表15 実質公債費比率の推移



「令和元年度の昭島市の実質公債費比率は0.3%で、26市中10番目に低いんだよ。」



「へ～、確かにこういう表を見ると、昭島市が大幅に借金に頼ることなく、財政運営を行っていることがわかるわね。」



「次に『将来負担比率』だよ。これは、市税のように毎年入ってくるような収入に対して、今後支払う予定のある借金や引当金などを市がどれだけ負担しているかを示す割合のことだよ。」



「????」



「実質公債費比率と同じように将来負担比率も家計に置き換えてみよう。将来負担比率は、給料などの収入に対して、住宅ローンや教育ローンの残高等から貯蓄してきた貯金等を差し引いた額がどれくらいの割合なのかを示しているんだ。つまり、これから先負担しなくてはいけないお金が家計をどれだけ圧迫する可能性があるかを示す比率なんだ。」



「そうなのね。昭島市の将来負担比率は何%なの？」



「昭島市が貯蓄してきた貯金等よりこれから先負担しなくてはいけないお金が少なかったことから、将来負担比率はマイナスとなって、令和元年度は比率が算定されなかったんだ。昭島市は平成26年度から比率が算定されていないんだ。」



「そっか。それなら、安心だわ。」



「最後の比率は、『資金不足比率』だよ。この比率は、公営企業会計（水道事業や下水道事業などの会計）の事業の規模に対する資金不足額（赤字額など）の割合を示す指標のことで、公営企業会計の赤字額が増えると比率も上昇するんだ。」



「昭島市には、公営企業会計はいくつあるの？その会計は、資金不足比率は何%なの？」



「昭島市には、水道事業と下水道事業、中神土地区画整理事業の3つの会計が対象となっているよ。3つの会計とも赤字はなく、比率はされなかったんだ。」



「どの会計においても赤字がなくて、健全な状態ということがわかって安心したわ。」



現在の昭島市の財政状況をまとめると…



「最後に現在の昭島市の財政がどんな状況にあるのか、考えてみよう。」



「さっき見た指標からも財政は健全だし、余裕があるんじゃない？」



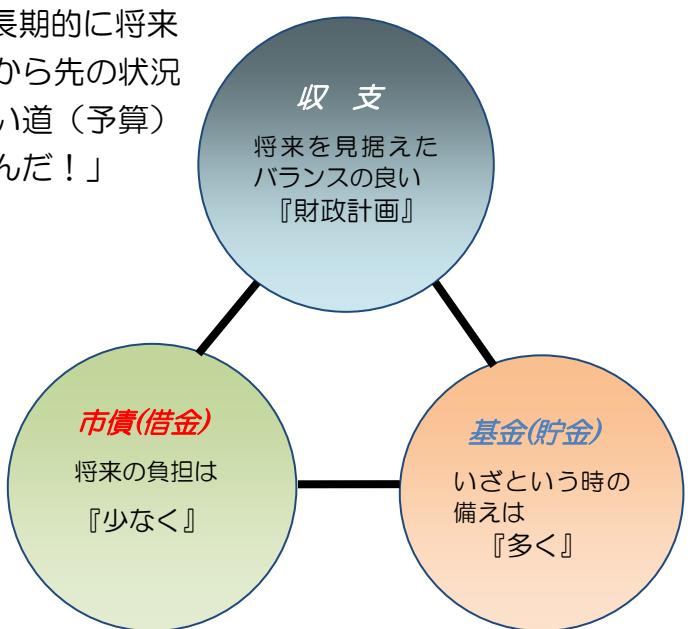
「本当にそういえるかな？景気が回復してきているといつても、市税がどこまで回復するかはわからないし、一方で扶助費などの社会保障に係る経費の増や公共施設の老朽化への対応、その他大規模な建設事業を予定している昭島市の財政状況は、健全ではあるけど、決して余裕のある状況ではないんだ。また、今後においては、新型コロナウイルスの影響により急激に悪化している経済状況を考えると、さらなる市税等の減収が予想されるんだ。」



「えっ！ そうなの！？」



「そこで大事になってくるのは、中・長期的に将来の財政計画（見通し）をたて、これから先の状況を視野に入れた上で、今のお金の使い道（予算）のバランスを良くすることが大事なんだ！」



「私たちの家計と同じで、市の財政も貯金の取り崩しや借金に頼ってばかりではなく、将来を見据えたバランスのとれた収支（財政計画）が大事ってことね！」



「これまで色々な面から昭島市の財政状況を見てきたけど、昭島市の財政が前よりもわかってくれたかな？」



「うん、わかった！」



「それなら、良かった。今回は簡単な部分しか教えてあげられなかったけど、昭島市の財政状況は広報やホームページでも年に数回公表されているよ。もっと詳しく知りたくなったら、のぞいてみてね！」

昭島市では、昭島市公式ホームページや広報紙で、下記の財政情報を公表しています。

- 公式ホームページ URL <http://www.city.akishima.lg.jp/060/070/index.html>
 - 当初予算大綱・概要、補正予算概要
 - 上半期財政状況・下半期財政状況・決算状況
 - 決算カード、財政状況資料集、比較分析表
 - 健全化判断比率及び資金不足比率の状況
 - 財政白書（昭島市の財政）、財務書類
 - 昭島市中期財政計画
- 広報あきしま 当初予算：4月1日号 決算：10月15日号
上半期財政状況：12月1日号 下半期財政状況：6月1日号
※広報でのお知らせ時期は前後することがあります。
- 編 集 企画部財政課

